

ご遺族の皆様へ

# 病理解剖について

この度はご家族のご逝去に際し、謹んでお悔やみ申し上げます。

当院では、お亡くなりになられた患者さんに対する病理解剖の実施をお願いしております。このパンフレットは、病理解剖についてご家族の皆さまの疑問にお答えするための資料です。是非、ご一読ください。また、担当の医師より十分に説明を受けていただいたうえで、病理解剖のご承諾をいただきますようお願いいたします。

## 病理解剖って何ですか？

病気のために亡くなられた患者さんのご遺体の臓器、組織、細胞を直接観察して詳しい医学的検証を行うことです。解剖によって初めて死因を正しく理解できることがあります。また、生前には見つかっていなかった疾患等の重要な情報が得られ、治療行為の適切性を判断することにも役立てられます。

## なぜ病理解剖が必要なのですか？

医学の急速な進歩によって、さまざまな疾患に対して新しい診断法や治療法が開発され、現代の医療は大変高度かつ複雑なものになっています。その一方で、患者さんに起こる全ての出来事を予測し、対応することは現在でも難しいと言わざるを得ません。したがって、より確実な、よりよい医療を行うために、治療の効果、問題点を絶えず検証する必要があります。この医学的検証、病理解剖は非常に重要な役割を果たします。

ただし、解剖をしても患者さんの亡くなった原因がわからないこともあります。

# 病理解剖の実際 Q&A

(日本病理学会ホームページを参考に作成)

## Q1 病理解剖はどのように行われますか？

A1

病理解剖にはご遺族の承諾が必要となります。担当医の説明を十分にお聞きください。病理解剖は解剖や病理診断を専門とする医師（病理医、法医）と医学的な専門知識を持った助手（臨床検査技師など）により行われます。ご遺体は畏敬の念とともに取り扱われ、慎重に検索が行われます。主に胸部、腹部を開き、臓器を取り出して検索し、必要に応じて脳や脊髄も取り出して検索します。また、生前の経過によっては、その他の組織、血液なども採取して調べることがあります。

## Q2 病理解剖にかかる時間はどれくらいですか？

A2

病理解剖は通常数時間かけて行われます。解剖終了後、ご遺体は直ちにご遺族のもとにお返しいたします。

## Q3 病理解剖が終わった後の遺体の様子はどのようになっていますか？

A3

病理解剖の際には胸部から腹部にかけてメスで切開します。着衣の状態では傷がみえにくい場所で切開を行い、解剖後は丁寧に縫い合わせます。脳の検索を行う場合には頭部も切開しますが、正面からは切開した傷が見えにくい位置で切開し、同様に縫い合わせます。

## Q4 病理解剖で取り出された臓器はどのように取り扱われますか？

A4

摘出された臓器は肉眼観察および写真による記録が行われた後、その全部もしくは一部をホルマリンの中で保存します。その一部は、顕微鏡で観察するための組織標本（パラフィンブロックおよびスライドガラス標本）を作製し、光学顕微鏡で各臓器の異常を詳細に調べます。必要に応じて微生物学的検査、電子顕微鏡検査や遺伝子検査などが行われることもあります。臓器は一定期間病院で保管された後、法律やガイドラインの定めるところに従って取り扱われます。組織標本はさらに長期間保存されますが、保存期間は病院により異なります。

## Q5 病理解剖の費用を遺族が支払う必要がありますか？

A5

病理解剖に必要な費用は原則として病院が負担します。

## Q6 病理解剖の結果を知ることができますか？

A6

病理解剖でご遺体およびその臓器を調べた結果は、生前の症状や検査結果と総合的に判断して「病理解剖報告書」としてまとめられ、主治医に報告されます。ご遺族の方も、主治医を通して病理解剖の結果について知ることができます。

## Q7 病理解剖の結果が出るまでにどのくらいかかりますか？

A7

症例によって異なりますが、数カ月程度かかります。